

令和七年度「家族の詩」入賞作品

市長賞

ぼくの家族

白須賀中学校 一学年

味岡 あじおか 真大 まひろ . . . 1

教育長賞

「私とおばあちゃんの絆」新居中学校 一学年

梶川 かじかわ 莉香 りか . . . 2

明湖会長賞

言葉の力

白須賀中学校 一学年

越前 えちぜん 結衣 ゆい . . . 3

優秀賞

家族へ

鷺津中学校 一学年

小南 こみなみ 瑠夏 るか . . . 4

空

鷺津中学校 一学年

サルジニヤ ペドロ . . . 5

まほうつかい

鷺津中学校 一学年

宮国 みやくに くるみ . . . 6

努力賞

杭

白須賀中学校 一学年

近藤 こんどう 楓 かえぞ . . . 7

家族の温かさ

鷺津中学校 一学年

中村 なかむら 優志 ゆうし . . . 8

「わたしの日常」

鷺津中学校 一学年

田畑 たばた 美宇 みう . . . 9

旅行中

湖西中学校 三学年

藤田 ふじた 華怜 かれん . . . 10.

市長賞

ぼくの家族

白須賀中学校 一学年

あしおか
味岡

まひろ
真大

ぼくの家族は
とても個性がある
父はダジャレをよく言う
たまに強くおこる
母は雨女だ
家を出るとよく雨が降ってくる
一人目の妹は
なんか姉みたい
二人目の妹は
虫がとても好きだ
友達からは
「トカゲハンター」って
呼ばれているらしい
ちよつと変なぼくの家族
なんかいいぼくの家族

教育長賞

「私とおばあちゃんの絆」

新居中学校 二学年

梶川

莉香

湖西市新居町と長野県木曾町は友好都市

それは、私が住んでいる町とおばあちゃんが生まれ育った町

私のおばあちゃんは色々な事を教えてくれる

野菜の育て方、蕎麦の打ち方、すんきの漬物の作り方・・・

おばあちゃんは何でも知っている

おばあちゃんとの思い出はまだ十二年だけど

もっと知りたいな、もっと話したいな

もつともつと一緒に居たいな

これから先、私がおばあちゃんに色々な事を伝えたいな

私とおばあちゃん、二百三十キロ離れているけれど、

心はずっとそばにいるよ

私とおばあちゃんはいつまでも深い絆で結ばれている

明湖会長賞

言葉の力

白須賀中学校 一学年

越前えちぜん

結衣ゆい

「おはよう」で始まる

家族の一日

「おいしい」であふれる

家族の笑顔

「たのしい」で生まれる

家族の輪

この四文字が

私たちの

生きる力になっている

優秀賞

家族へ

鷺津中学校 一学年 小南^{こみなみ} 瑠夏^{るか}

よく遊んでくれる お父さん
遊ぼうというと
めんどうくさそうな 顔をするが
遊んでいると
子どものように無邪気で
私はとっても
笑顔が溢れて 楽しくなる

よく話してくれる お母さん
長く話していると
めんどうくさそうな 顔をするが
話していると
お茶会のように楽しくて
私はとっても
笑顔が溢れて 楽しくなる

普段遊ばない お兄ちゃん
一緒に遊ぼうとすると
めんどうくさそうな 顔をするが
一緒にゲームをすると
博士のように物知りで
私はとっても
笑顔が溢れて 楽しくなる

よく私に笑顔をくれる 家族
おかげで
私は毎日 心が踊る

優 秀 賞

空

鷺津中学校 一学年 サルジニヤ ペドロ

僕らは
空を見る
家族と
僕は空を見る

僕は共にいる
家族といつまでも
僕は空を見る
上を眺めて
空を見る
僕らと空は
いつまでも
ほほえむ

家族と進んで
僕は歩む
心は一つに
家族の思いを

僕らは眺める
高くてほほえむ
空を

先祖の
魂も待っている
もう一つの
高い空で
僕はのぼる
高い空へ
家族との
約束を
守り続けるため
会うために

僕は空を見ると
思い出す

優 秀 賞

まほうつかい

鷺津中学校 一学年

みまぐし

宮園 くるみ

お母さんはまほうつかいだ

うれしいことがあつたときも

かなしいことがあつたときも

なやんでいるときも

おなかがすいているときも

イライラしているときも

お母さんはまるで私の心が

みえているみたいだ

あるとき 心にモヤモヤがすんでいた

私にはどうすることもできなかった

お母さんはそのあたたかい手で

私を柔らかく包んでくれた

すうーとモヤモヤがきえた

私は確信した。

おかあさんはまほうつかいだ

努力賞

杭

白須賀中学校 一学年

近藤 こんどう

楓 かえで

家族とは「杭」のような物だ

家族がいればいつでもよりそえる

いつでも支えてくれる

たとえ道に迷っても

挫けそうになってもその「杭」があれば

また立ち上がれる

正しい道へ導いてくれる

だから折れちゃいけない

抜けちゃいけない

かけがえのない物である

誰でも同じ事を言うはずだ

努力賞

家族の温かさ

鷺津中学校 一学年

中村

優志

当たり前には 温かさがある

けど

当たり前だから気づきにくい

初めてその温かい当たり前を失ったとき

人は後悔する 悲しむ

だから今のうちに

当たり前に届けたい

精一杯の感謝を

努力賞

「わたしの日常」

鷺津中学校 一学年

たばた
田畑

みう
美宇

朝起きると台所からいいにおい
「早く起きなさい。」という母の声
まだねむい
でもその声を聞くと今日も一日がんびろうと
気合いが入るんだ

父は毎日仕事で忙しい
帰ってきた父に
「おかえり。」と言うと
「ただいま。」と笑顔で返してくれる
その笑顔でなんだか一日がほっとした気分で終わるんだ

弟はうるさくてよくけんかもする
でも困っている時はいつも助けてくれる
くやしいから口では言わないけれどたよりになる
とっても仲良しなんだ

家族って特別じゃない
毎日そばにいるのが当たり前
でももしこの当たり前がなくなったら
心にぽっかりと穴があくんだらう
涙もこぼれてしまうにちがいない

だから私は決めた
「ありがとう」ってちゃんと伝えたい
言葉にするのは照れるけど
本当は毎日感じている
心をこめて精いっぱい
「ありがとう」

努力賞

旅行中

湖西中学校 二学年

藤田^{ふじた}

華^か怜^{れん}

修学旅行初日の夜

ふと感じる淋しさ

思い浮かぶ家族の顔

修学旅行最終日

バスを降りて母を探す

見つけた瞬間のうれしさと

こみあげてくる思い

「ただいま」と言ったら

「おかえり」と返ってくる

家族のあたたかさを

感じたとき